

第3回福岡市子ども読書活動推進計画策定検討委員会 議事録

日時	令和5年 2月3日(金) 15:30~16:30
場所	福岡市役所 教育委員会 会議室
出席者	別紙のとおり
議題	子ども読書活動推進計画(第4次)の策定について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

(1) 事務局挨拶

指導部長挨拶

(2) 出席者の確認

事務局 | ※出席者名簿をもって確認

(3) 会議の公開について

事務局 | ※傍聴要領について説明(内容は省略)
(傍聴人なし)

2 協議

(1) 福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方(案)について

委員長 | 事務局から説明を

事務局 | ※パブリック・コメントの結果について説明(省略)
※取り組み分野ごとの意見の概要、素案の修正箇所等の説明(省略)

委員長 | これについて意見や質問はないか。

委員 | 2. 学校における読書活動の推進、意見番号54(修正あり)について、計画案32ページ「ブックトーク、ビブリオバトル、教職員や児童・生徒のおすすめの本の紹介などの」が書き加えられているが、小学校の低学年の読書活動として「読み聞かせ」や「ストーリーテリング」を入れた方がよい。

事務局 | 低学年という視点を加えた発達段階に応じた読書活動になるよう修正をする。

委員	<p>ブックスタートボランティアのメンバーと、3年ぶりに対面で会議を持つことができた。公民館や子どもプラザで、乳幼児の母親と交流をしているが、ブックスタート事業が始まり4ヶ月健診のときに手渡ししていた本が全部郵送になっている。コロナ禍によって、多分保健所や担当が忙しく、10ヶ月ぐらいに届いた。本と一緒にリーフレットやお便りがはいつていることもあれば、本だけが届き、他に何も入っていないということがあったと聞いている。担当課にこの状況を伝えてほしい。</p> <p>公民館のお話会、子どもプラザでの催しものが増えてきているが、2、3年前は母親から催し物の再開について問い合わせもあった。</p> <p>リーフレットも3年前のものを、そのまま利用せず、時代に合わせたものにしてほしい。みなさん、本当に熱意をもってボランティアをされており、郵送作業も手伝いたいと言っている。</p>
事務局	<p>担当課と共有する。</p>
委員長	<p>ブックスタートが浸透しているということは大変うれしい。きちんと必要なパンフレットと情報を入れた形で、郵送、お手元に届くようにしてほしい。</p> <p>学校図書館に関するご意見がたくさんあったが、意見はないか。</p>
委員	<p>学校司書の先生が熱心に働いてくださり、1日4時間の中でよくしてくださっている。新設校ができると、その学校の図書館を整えていくのが大変な業務となるため、担当校の中に新設校があった場合の勤務日数について心配の声がある。子ども達にとって、4時間の勤務は短い、とても大きな役割を果たしている。「学校司書配置を検討する際に参考にさせていただく」との市の考えなので、少し考慮していただきたい。</p>
委員長	<p>新設校の学校図書館の準備は大変なので、そのあたりの配慮、5校に1人ではなく、意見をいただいているように、1校1人に近づくように取り組みをしていただきたい。</p>
事務局	<p>学校司書について、たくさんの意見をいただいた。この策定検討委員会でも意見をいただいております、しっかりと受けとめている。今後学校数も増えていく中で、適切な配置について検討していく。</p>
委員長	<p>司書教諭が、もう少し図書館業務に関われるようにならないかという意見が</p>

ある。

委員 司書教諭の活躍のためには、中学校の図書館教育研究会をやはり充実させない限り、一校一校の、図書館教育が充実されないのではないかと、図書館教育研究会のメンバーで反省しつつ、次年度に向けて取り組んでいきたい。市教委と連携して、また小学校の図書館教育研究会とも連携して、発展に向けて尽力したい。

委員長 授業の軽減をしているか。

委員 していない。

委員 司書教諭は、各学校において、お互いに見ることができると活用する等、スクールサポートスタッフの先生とも、つながりながら、学校事情にもよるが、各学校で少しでも負担軽減したり、活動が充実したりできるよう考えながら、取り組んでいる。

小学校図書館教育研究委員会でも、学んだ研究の成果については、全市に送って活用できるように準備をしている。

事務局 よい連携をしている学校の取り組みを周知する必要がある。研修等で共有しつつ、第4次計画を推進していきたい。

委員長 図書館からは何か意見があるか。

委員 図書館のお話会は、少しずつ再開している。電子図書館に関する意見、69番のところに、やはり子どもに対する紙の本の充実が書かれている。実際、総合図書館の電子図書館で児童書を入れても、低学年向けの書籍は、動きが少ない。利用者の方にお勧めした時も、保護者の方も、電子書籍は手渡ししたくないと言われる方も多い。電子書籍にすぐく力を入れて欲しいという意見もあるが、子どもの本の中での電子書籍や電子図書館の取り扱いが私達も全然まだわからない。勉強していくところではあると感じている。あと読み物とその調べものに、ポプラ社さんのヨモッカ等を導入したらどうかという意見が上がっているが、何か調べ物であればうまく使えたりもするのかと思うが、かなりお金がかかると聞いている。お金をかけるにあたって、どういう使い方がで

きるのか、例えば学校で連携して使うことができるのかということも図書館として、司書としては考えていかなければいけないと思う。

委員長

GIGA スクール構想で、1人1台タブレットがあるが、家庭でそれが使えるかどうかはまた別の問題になる。すべての子どもが、自宅で活用できるかというそうではないし、本当に幼い子どもに、本は確かに本なんだけれども、デジタルデバイスを使って、本を読むことが発達上いいかどうかという問題も、これから考えていかなければいけない。

委員

福岡市では各小学校区に公民館があり、ほとんどの場所に図書がある。入部公民館でも、総合図書館から3回貸出してもらい、新しいものを入れている。しかし、コロナ禍ということもあり、図書離れは確実にきている。公民館は乳幼児から、高齢者の方までの本を充実させており、小学生に限らない。また小学生も学校が空いていない土日、公民館は祝日も開いており、来てくださいとお知らせするが、子どもたちの図書の利用が少なくなっている。図書館からの「子供図書館ニュース」がある。そのような新しい情報がくるのは大変助かっている。学校でも、地域でもぜひ公民館の図書も大いに利用していただきたい。ただ、司書はいないので、選本の時は図書に興味がある方にお願ひし、よい本を皆に読んでいただけるように、毎年選本に行っている。たくさんの方に利用いただきたい。

委員長

地域で公民館や図書館と連携して、地域での読書活動の推進はとても大事なことだと思う。公民館に本があってその本を利用できるということがどの程度、子どもたちに浸透しているかという点は、心配である。例えば学校にその公民館に図書が置いてある、そして土日も開いていて利用できるというお知らせを届けると、PRになる。学校との連携という点で。

委員

小学3年生の社会科の学習の中に地域の中の公共機関という学習があり、コロナ禍は少しストップしていたが、公民館に行き、公民館の役割、中にたくさん本があることを子ども達は学習しているので、その学習からも広げていけるように、意識づけをしたい。

委員長

お話の会の方からは何かないか。

委員

総合図書館では、コロナ禍以降、子ども向けのお話会が全くされていない。

分館と違い、すごい密閉性が強く、換気の面で開催できない。しかしクリスマスのお話会などのときに来た子ども達が本当に目を輝かせて、喜んで聞いてくれるのを見て、やっぱりどんな形でもいいから、字の読めない子どもでも、お話会をととても楽しんでくれる。いくら字が読めても、字が読めるからみんな本を読むのかというと、そうではない。やはり昔話を耳で聞いて、そのときに、心豊かになるような、感動するような時間を共有すれば、もっともっと子ども達が本に親しんでくれると思っている。ただ、コロナ禍でできないということを私たちのグループでは悲しんでいる。5月が過ぎて5類になって、ハードルが下がれば、子ども達に、私達の思いが伝わるような形を増やしていけるのではないかと、図書館の方に協力してもらい、今何か模索している。

委員長

コロナ禍で、直接子ども達にやってあげる機会がなくなっているのは残念。学校の朝読書などでも、学校によって教室に入ってできているところもあれば、まだやれていないところもある。

学校のボランティアの方から何かないか。

委員

城南区の小学校で、毎月、読み聞かせボランティアをしたが、子ども達は絵本の読み聞かせの時間を楽しみにしており、コロナ前は、1年から6年生のクラスで一斉にボランティアが入って、全部学年ごとに統一して、季節にあった本を毎年選定していた。コロナ禍になり、回数も減っているが、今でもひと月に、2回、1、2、3年生で実施している。今年高学年はできていないが、6年生が卒業前に、最初で最後、今年、1回だけの読み聞かせに入る。

絵本を出した瞬間、子ども達の空気が一斉に変わる。空気が変わって本当に、楽しみにしている中でどんなお話なんだろうっていう緊張感みたいな、すごく読み手としても快くなる。また、読んでいる間に興味がある子たちがどんどん寄ってきて、足元まで来る子たちもいる。読み終わった後に、すごくよかった、いい本を選定してくださってよかったと言われた。そういう機会を本当はもっともっと増やしてほしいが、コロナ禍でも、継続していくことが大切だと思う。読み手も年々減っているが、卒業後もOBとして協力していただき、我が校で取り組んでいる。本当に読めないときは、給食の時間に合わせて放送室から放送だけしている。子ども達は本当はやはり本が好きだと思う。誰かが読んであげる、そういう時間がとられないご家庭も多くおられるのではないかと。

委員

各クラスに親が行って今もやっているのか。

委員	はい
委員	今私がボランティアで行っている学校では、対面でするときは、音楽室で、フロアマットを分散して置いて、距離を取って座り、窓も開けばなしで行う。オンラインも、最初はどうかと思ったが、知っている人が読むので、普通の動画を見ているよりは反応がある。
委員	消毒、検温をした上で入り、全部窓を開けはなって実施している。先生によっては、席で聞かせる、真ん中に寄せて子ども達だけ、前に座らせて聞かせている。
委員長	子ども達が読み聞かせをとっても楽しんでいるということで、心強く思う。学校の中で取り組むということの大切さ、家庭で読んでもらえていない子もいるというところ、学校という場はすごく大切な読書活動推進の場だと改めて感じる。
委員	本当に小学校での読み聞かせはとても貴重な体験と思うが、私たちがやりたいと思っても学校から断られると入れないので、その基準はどうなっているのか。今コロナで、それだけで断られてしまうので、環境、対策をしっかりとって入るつもりでいるが、入らせてもらえないのは悲しい。実施できるのがうらやましい。
委員長	実施の決定は、校長先生か。
委員	そのときの感染状況、学校環境によって違い、1年の中でも動きがある。今の時期だったら、もう子ども達も、地域の感染状況も安定しているから、お招きできるかもしれない。また小学校で、子どもが、コロナにより学校に行けなくなると、お仕事に行けないという保護者の方もいらっしゃると思うので、十分な配慮も学校に求められる。一様に全部がこの基準というのはなくて、同じ学校の中でも同じ条件の中では、動けないこともある。
委員長	いろいろなご家庭があるし、コロナが収まるのを待つしかない。他に何か。
委員	廃棄本のリサイクルについて。ご意見にもあったが、中学校とかで綺麗なまま捨てられていく本を近隣の小学校にゆずるのは、難しいのか。今SDGsとかで子ども達はリサイクルなど取り組んでいる。小学校の本は、もうボロボロになって、貼っても貼りきれないものは穴をあけて縫い直している。一方中学校は図書

館に来る人も少ないし、予算も多く、毎年たくさん本を購入し綺麗なまま捨てられていくという話を聞いた。近隣の小学校に譲ることができたらよい。

事務局 意見にもあがっている。まずは、私達もその状況を把握したい。実際に本当にそういう状況があるのか。いろいろな基準をもとに予算の措置をしたり、廃棄をしたりして、計画的に学校の図書館の本を揃えている。

委員 市の図書館では、リサイクルの本を持って行って下さいと、除籍の本が置いてある。あのようのできたらいい。個人に譲るのが難しいとしても、近隣の小学校の図書館に譲ることができたらよい。

委員長 福岡市の総合図書館、リサイクルは個人対象か。

委員 総合図書館の分を個人配布はしていない。団体、学校に出している。分館の方は、個人に出していたりもする。司書の立場からいうと、そこにも人の手はいる。本の廃棄に人の手がいるし、別のバーコードがついている本を次のバーコードに移し、きちんと管理させるのは、人手がかなりかかることである。そこがまた学校司書の先生の充実に、繋がっていく。

委員 基本的には廃棄した本ではなくて、新しい本を子ども達には見せてあげたい。廃棄された本を積極的に欲しいとは私は思わない。できれば情報が新しいものがよい。廃棄された本には廃棄される理由があるから、積極的に欲しいとは思っていない。
小学校、中学校と図書予算があるが、学校司書の研修会でも、中学校の予算がすごくたくさんあるのに小学校の本がボロボロだから、小学校にもうちょっと予算をつけて欲しいという意見を聞く。早急に見直してほしい。

委員 総合図書館から廃棄をされた本を学校図書館に入れることは難しいが、各学級等で活用することはできる。

委員長 学級文庫も充実していれば子ども達が、かえって自由に手に取ることができると。ぜひ活用してほしい。

事務局 図書の整備について、学級数に応じた図書標準が決められており、図書標準を達成しているかどうかは図書館の機能として十分であることを判断する一つ

の指標になっている。図書標準では、小学校より中学校の方が必要とする冊数が多いため、中学校の予算は多くなる。10年ぐらい前、図書を担当した時の状況を長期的に見ると、当時は図書標準に達していなかったという状況があった。その中で、標準達成のため廃棄をしないようにというお願いをしたこともある。ただし、予算を計画的につけていく中で、今の図書標準を達成していない学校は一部というところになった。現在、学校に対しては適切に廃棄してくださいと伝えている。

例えば、全国図書館協議会の図書廃棄基準、10年以上たっている本、国の表記の変更のとき等に本を廃棄するということが記載されている。ある程度それに則って、適切な廃棄はしていただきたい。その中で、予算が足りなくなれば、そこに対して委員会から予算を配慮し、配分していきながら、図書標準の全市的な達成を目指していく。本を縫ってまで残す必要はなく、廃棄していただいて、新しい本を買う予算を配分する、必要であればまた買い足すという話になる。捨てることができないから、使わないといけないという考えではないということ共有しておきたい。適切な廃棄は当然必要だし、そこに学校の関わりもあるし、その関わりは司書の方だけがするものではない。司書、学校が、組織として取り組んでいく。学校によって、司書がそれをするんだと学校全体が思っていたら、その学校が違う。

委員

テープで、ずっと張りつけたところを補修するお手伝いを、保護者の読み聞かせのボランティアもしている。学校では、おそらく司書の先生が1人で背負っているかもしれない。テープによる修復も、そこまでしなくても、それだけ人気がある本は購入するという一つの判断をしてよいということか。

事務局

標準冊数は、当然達成しないといけませんが、書架に隙間なくきっちり埋めている本に子ども達は手を出さない。そこに余裕の空間があることで、初めて子どもが本を選ぼうという意識になる。だから、例えば、書庫には、利用が少ない本を置き、人気がある本を配架する等、そういう工夫をしていかないといけない。その中で古い本を廃棄して新しい本に変えていった方が、子ども達の読書意欲につながる。何を廃棄して、何を新しく買うのかというのは、学校全体で話し合っていくべきことである。学校として、3番4番が今足りないとか、5番を足して調べ学習を今年は充実させていこう、或いは、子ども達は物語が好きだから、9番を充実させていく、絵本を多めにしていこう等全体的なバランスを見ながら、学校としてどういう本を今年購入するのか考えていかないといけない。それが学校の図書館担当部会等の役割になる。国が言うように、学校長が学校

図書館の館長であり、学校司書と連携しながら、学校全体で読書活動を推進していく。

古い本は廃棄して、新しい本を買って頂き、標準冊数に足りなければ、教育委員会としてできる限りの措置はしたい。

委員長

傷んだ本で、子どもが大好きな本は買い替えることができる。蔵書構成、廃棄基準とかね、そういうものをしっかりと考えた上で、図書部会できちんと検討していく。他に何か。

委員

先日行った大阪の中之島図書館には夢があった。キャリーに乗せた親子、サラリーマン、もう本当にいろんな人が読みに来ていてすごいと感じた。大きな階段に座って子どもが読み、図書館がすてきな空間だと思った。新刊本を紹介するときも、プロジェクターで円柱のコーナーがあって、子どもがそこに寝転がって新刊本のプロジェクトを見ながら、聞いている。本当にすてきな空間。入館には、予約がないと入れない。福岡にもそんな図書館があってほしい。

委員長

以上で本日の協議は終了する。

3 閉会
事務局

※閉会の挨拶(省略)

終了